

(様式3号)

## 学位論文の要旨

氏名 鈴木 恵子

〔題名〕カプセル内視鏡検査の画像鮮明度および全小腸観察率に対する polyethylene glycolと大建中湯の同時投与の効果について  
(Effect of Coadministration of Polyethylene Glycol and Dai-Kenchu-To on Image Definition and Complete Small Bowel Examination Rate in Capsule Endoscopy)

## 〔要旨〕

【目的】カプセル内視鏡検査は、小腸粘膜の直接的かつ非侵襲的な評価を可能にし、現在、多くの報告されているが、世界的に標準的な前処置の方法は確立されていない。現在、多くの検査の最も重要な課題は、病的な見逃しや病変の見逃しに起因する小腸病変の見逃しや、小腸全体が一定の検査時間内では観察できない症例が存在し、これらの症例では小腸病変を見逃す可能性が高くなる。本研究は、polyethylene glycol(PEG)と大建中湯(DKT)によるカプセル内視鏡の前処置が画像鮮明度と全小腸観察率に与える効果について検討した。【方法】2007年11月から2012年8月までに当院においてカプセル内視鏡検査を施行した178例を対象とした。患者は、前処置を行わなかった群(対照群133例)、検査前にPEGを経口投与した群(PEG群20例)、PEGと合計15gのDKTを3回に分けて経口投与した群(PEG+DKT群25例)の3群に振り分けた。これらの3群間で画像鮮明度および全小腸観察率を後ろ向きに比較検討した。【結果】画像鮮明度については、PEG+DKT群が対照群よりも有意に高かったが( $p < 0.05$ )、PEG群と対照群との間に有意差はなかった。全小腸観察率については、PEG群が対照群およびPEG+DKT群よりも有意に低かった( $p < 0.05$ )。【結論】カプセル内視鏡検査における前処置として、PEGとDKTの同時投与は画像鮮明度を改善し、PEG投与に起因すると考えられる全小腸観察率の低下を予防した。

学位論文審査の結果の要旨

医学系研究科応用分子生命科学系 (医学系)

報告番号	甲 第1350 号	氏 名	鈴木 恵子
論文審査担当者	主査教授	田 邊 剛	
	副査教授	山崎 隆弘	
	副査教授	坂本 功	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) カプセル内視鏡検査の画像鮮明度および全小腸観察率に対する polyethylene glycol と大建中湯の同時投与の効果について (Effect of Coadministration of Polyethylene Glycol and Dai-Kenchu-To on Image Definition and Complete Small Bowel Examination Rate in Capsule Endoscopy)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Effect of Coadministration of Polyethylene Glycol and Dai-Kenchu-To on Image Definition and Complete Small Bowel Examination Rate in Capsule Endoscopy (カプセル内視鏡検査の画像鮮明度および全小腸観察率に対する polyethylene glycol と大建中湯の同時投与の効果について)			
掲載雑誌名 The bulletin of the Yamaguchi Medical School (2014年 掲載予定)			
(論文審査の要旨)			
目的:カプセル内視鏡検査は、小腸粘膜の直接的かつ非侵襲的な評価を可能にしており、現在、世界で広く用いられている検査法である。その有用性は数多く報告されているが、一方で未だ標準的な前処置方法が確立されていない。現在、この検査の実施における最も重要な課題は、病変見逃しの低減である。その寄与因子として重要なものは、画像鮮明度と全小腸観察率である。すなわち、小腸病変の拾い上げが残渣による画像鮮明度の低下で困難になる症例や小腸全体が一定の検査時間内で観察できない症例が存在することである。この研究は、polyethylene glycol(PEG)と大建中湯(DKT)によるカプセル内視鏡の前処置が画像鮮明度と全小腸観察率に与える効果について検討した。 方法:2007年11月から2012年8月までに当院においてカプセル内視鏡検査を施行した178例を対象とした。患者は、前処置非実施群(対象群、n=133)、PEG経口投与群(PEG群、n=20)、PEGとDKTの同時経口投与群(15g)(PEG+DKT、n=25)の3群に振り分けた。これらの3群間で画像鮮明度および全小腸観察率を後ろ向きに比較検討した。 結果:画像鮮明度については、PEG+DKT群が対照群よりも有意に高かったが(p<0.05)、PEG群と対照群の間に有意差はなかった。全小腸観察率については、PEG群が対照群およびPEG+DKT群よりも有意に低かった(p<0.05)。			
本研究は、カプセル内視鏡検査における前処置として、PEGとDKTの同時投与は画像鮮明度を改善し、PEG投与に起因する全小腸観察率低下を予防することを明らかにした論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認められた。			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。